

令和5年12月14日
指 導 室

令和5年度こうとう学びスタンダード定着度調査 結果報告について

1 調査の概要

(1) 目的

- 児童・生徒に確実に身に付けさせたい内容を明らかにし、すべての学校でその定着を目指す「こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）」の定着状況を把握する。
- 各校でスタンダードを確実に推進し、さらにその内容の定着を徹底させるための授業改善を図る。

(2) 調査対象 ※特別支援学級（固定）の児童・生徒はそれぞれの状況に応じて実施

- 小学校及び義務教育学校（前期） 2～6 学年児童 21,374 人実施
- 中学校及び義務教育学校（後期） 全学年生徒 8,362 人実施

(3) 調査方法・内容

- 選択、短答及びアンケート形式による。
- 小学校及び義務教育学校（前期） ・ 学び方 ・ 体力 ・ 国語 ・ 算数 ・ 英語
- 中学校及び義務教育学校（後期） ・ 学び方 ・ 体力 ・ 国語 ・ 数学 ・ 英語

(4) 調査実施日

令和5年4月26日（水）

2 調査結果の概要（正答率別正答率・項目別正答率の2種類のグラフと結果の考察）

(1) 小学校及び義務教育学校（前期）

- スタンダード定着度 区平均
基礎・基本的な内容の定着を図る「スタンダード問題」では、国語、算数、英語とも全ての学年で平均正答率が7割を超えており、令和4年度と同程度の正答率であった。中でも、国語2・3学年、算数2・3・4学年、英語4・5・6学年では、平均正答率が8割を超えている。

(2) 中学校及び義務教育学校（後期）

- スタンダード定着度 区平均
基礎・基本的な内容の定着を図る「スタンダード問題」では、国語、数学、英語とも1～2学年の平均正答率は7割を超えており、令和4年度と同程度の正答率であった。また、3学年も国語、数学、英語とも6割を超えており、令和4年度と同程度であった。

3 調査結果を生かした今後の改善

- 主体的な学び、習得した知識の活用を促す授業改善
- タブレット端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現
- 各校における授業スタイルの確立と実践
- スタンダード強化講師の効果的な活用
- 個に応じた支援の充実